

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1962
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.55, No.5 (1962. 5)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19620501--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田学会雑誌

1962年 5月号

論 説

- わが国 1890—1920 年の出生数と
 総出生率 (General Fertility Rate) の推計……………安川正彬 1
 ——「人口転換」法則との関連によせて——
- 県別の労働力流入と賃金・所得……………西川俊作 31
- 男女間・県間・産業間賃金変動の相似性……………佐野陽子 50
 ——毎月勤労統計調査による——

資 料

- 九州地方の炭鉱労働市場……………西川俊作 64

書 評

- 佐野稔著
 『産業合理化と労働組合
 ——イギリス労働運動史の一断面——』……………飯田鼎 82
- S. アフロノヴィチ著
 『支配階級——イギリス金融資本の研究——』……………飯田裕康 87

新刊紹介
 経済学会報告 (昭和36年度)

55 卷 5 号

昭和37年5月1日発行
 昭和37年4月1日発行
 昭和37年3月1日発行
 昭和37年2月1日発行
 昭和37年1月1日発行

昭和37年5月1日発行
 昭和37年4月1日発行
 昭和37年3月1日発行
 昭和37年2月1日発行
 昭和37年1月1日発行

三田学会雑誌

昭和三十七年四月号

定価 金二〇〇円 (送料別)

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 55, No. 4

April, 1962

CONTENTS

	page
The Internal Contradictions of Capitalist ProductionK. Imura	1
——K. Marx's treatment in "Das Kapital", Vol. III, Chap. XV.——	
Die Logik des fiktiven Kapitals	H. Iida 44
John Francis Bray (4)	K. Asobe 70
The Métayage and the Eighteenth Century France.....	K. Watanabe 81
The Present Standard of the Study about Reformation and Peasant War in East Germany	M. Terao 91
Book Reviews	
Statistical Geography, by O. D. Duncan, R. P. Cuzzort and B. Duncan	J. Takahashi 103

Published for
 KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI

(The Keio Economic Society)
 Editorial communications to be sent to
 the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,
 Keio University,
 Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
 Price 120 yen

新刊紹介

條原三代平編『日本型賃金構造の研究』……………井村喜代子	92
舟橋尚道編『二〇年後の教育と経済』……………佐藤保	93
清水義弘著『二〇年後の教育と経済』……………佐藤保	93
岸本英太郎編『現代のホワイトカラー』……………白井厚	94

—その地位と労働と生活—

わが国一八九〇—一九二〇年の出生数と
総出生率 (General Fertility Rate) の推計

—『人口転換』法則との関連によせて—

安川正彬

一、問題の所在

人口と経済のあいだには、人口が経済を、逆にまた、経済が人口を刺激する面とがあるが、先進諸国が過去に経験した経済の発展過程を考察するとき、経済進歩が人口成長を促した局面のあることが理解される。

経済発展にともなう人口の進化過程は、すでにタムスン (Thompson, W.S.)、ノートスタイン (Notstein, F.W.)、ブラッカー (Blacker, C.P.)、ランドリー (Landry, A.)、その他の人口学者 (demographers) のあいだで研究が進められ、人口動態変化のパターンをつくるのに成功した⁽¹⁾。『人口転換』(Demographic transition) として知られる経験法則がそれである。ここではブラッカーの分類にしたがってしめしたレイベンステイン (Leibenstein, H.) の模型図⁽²⁾を引用して、その概略を説明しよう。

ブラッカーは人口の進化過程をつぎの5段階に区分する。すなわち高位静止 (high stationary)、初期拡張 (early expanding)、後期拡張 (late expanding)、低位静止 (low stationary)、減退 (diminishing) である。これを図示すると第1図のようにしめされる (5段階は、それぞれの名称のイニシアルをとって、HS・EE・LE・LS・Dでしめされている)。まずHS (高位静止) は出生率・死亡

わが国一八九〇—一九二〇年の出生数と総出生率の推計